

鳴門教育大学が受託した JICA 理数科教授法研修の現状と課題

ーケニア・仏語圏アフリカ研修の事例ー

○小澤大成^A, 小野由美子^A, 近森憲助^A

OZAWA Hiroaki, ONO Yumiko, CHIKAMORI Kensuke

鳴門教育大学^A

【キーワード】 JICA 研修, 理数科, 教授法, 教員指導者, 授業研究

1 研修の背景

アフリカにおける産業発展のためには科学的知識・技術を備えた人材養成が急務であるが、その基礎となる理数科学力に課題がある。その原因の一つである教師の指導力向上のため、日本は技術協力プロジェクトの実施や SMASE-WECSA ネットワークを通じた支援を行っている。

その拠点であるケニアでは、「中等理数科教育強化プロジェクト (SMASSE)」の成果を受けケニアの初等教育の理数科教育の向上を目指す「理数科教育強化プロジェクト (SMASE)」が開始され、仏語圏アフリカのセネガルにおいても小学校教員を対象とした「理数科教育改善プロジェクト (PREMST)」が実施されている。

これらの技術教育プロジェクトでは、カスケード方式で国レベルからクラスターレベルまで段階的に研修を実施し、地方教育行政官などの教員指導者が研修の運営・実施やモニタリングに大きな役割を果たす。教員指導者には学校現場において理数科授業を観察し、教授法の指導助言を行うことが期待されているが、良い授業を見た経験に乏しく、また授業内容を詳細に観察記録することができず、表層的・理論的な助言をすることが多いのが課題である。

2 研修の現状

鳴門教育大学ではケニアの教員指導者を対象にした「初等理数科指導法改善」、フランス語圏アフリカ諸国の教員指導者を対象にした「仏語圏アフリカ理数科分野における教授法/教科指導法改善研修」を実施している。両研修とも①理数科授業の観察分析に基づく指導助言能力の向上②校内あるいはクラスターレベルの教員研修運営能力の向上が主たる目的であり、期間は4週間である。特徴的なプログラムとしては、①理数科授業の観察分析②模擬授業の計画・実施と授業検討会③公立小学校における校内研修の観察がある。

理数科授業の観察分析に関しては、①現地に

においてあらかじめ収録した理科・数学授業ビデオの観察分析②鳴門教育大学の附属小学校・公立小学校を訪問し理科・算数授業を観察、その後大学に戻って収録したビデオを用いた観察分析という2つの方法を用い、現地の理科・数学授業と日本の理科・数学授業の違いを研修員自ら理解する手法で実施した。日本の授業研究会で用いられているのと同様の授業観察シートを活用し、研修員に詳細な授業記録を取らせることに腐心した。模擬授業の計画・実施と授業検討会については、現地で用いられている教科書を準備し、研修員をいくつかのグループに分け、模擬授業を計画・実施させるとともに授業検討会を実施し、授業指導を受ける教員の立場を経験させた。公立小学校における校内研修の観察については、理科あるいは算数の研究授業に引き続き授業検討会を観察することで、日本の小学校教員が授業研究をする際の観点や校内研修の運営方法を学んだ。

3 研修の課題

両研修とも研修員は授業観察の方法を学び、詳細な授業記録ができるようになった。事前・事後において同一の授業ビデオを観察後、その授業に対する指導助言を行う課題を研修の効果測定するため実施した。研修員たちは日本での研修を踏まえ日本の授業に取り入れられている生徒の思考を促進する授業要素を助言に加えるようになった。ただし授業の中での具体的な発問内容を助言するなど明確なものは見られなかった。

4 今後の展望

大学の予算を活用し、ケニア・セネガルへのフォローアップ訪問を実施した。ケニアにおいては日本で学んだ授業研究手法を自らが担当する学区で普及しようとする姿が見られた。また現地の理数科授業の観察や初等学校終了試験問題の収集を実施した。今後は現地の授業実践の課題・背景を踏まえた漸進的な授業改善に資する研修内容を考えていきたい。